

「石炭火力を考える東京湾の会」発足

本日神奈川県知事に東京湾岸の石炭火力発電建設計画への申入れ

現在、東京湾岸では横須賀、千葉、袖ヶ浦の3ヶ所で5基の石炭火力発電所が新規に建設される計画があります。すでに東京湾岸では多数の火力発電所が稼働しており、これに加えて石炭を燃料とする大規模な火力発電所が建設されることに対して様々な懸念や反対の声があがっています。

各地域では、昨年より石炭火力発電所の問題について考える地域団体が発足、さらに本年5月2日にはこれらの団体のネットワーク組織「石炭火力を考える東京湾の会」が発足しています。

「石炭火力を考える東京湾の会」は、発足後、環境省に対する申入れ（5月16日）、千葉県知事への申入れ（5月22日）と、積極的に政府・自治体関係者との対話を展開してきており、さらに本日6月5日には神奈川県知事に対して申入れを行います。

<住民の主な懸念>

●更新ではなく新設としてアセスを

・長期計画停止中前も稼働率が低く、温暖化ガスや大気汚染物質の排出が少ない状況であったにも関わらず、「リプレイス合理化ガイドライン」が適用され、実測値による比較が行われていない。

●環境基準値をさらに超える懸念

・PM2.5 や光化学オキシダント等は現状でも環境基準をみたくしていない状況であり、さらなる大気汚染の改善が必要。

●防災上の安全の問題

・計画地は1950年代に埋め立て等によって造成された土地であり、地震時の液状化や耐震性に不安がある。

●住民説明が不十分

・石炭を燃料とすること、液状化や耐震性のこと、解体工事のことなど、住民へ十分な説明がなされていない。

●複合汚染

・複数の石炭火力発電所が全て稼働した場合の環境影響評価がされていない。

●海水温上昇の影響

・東京湾ではこの数年で水温が上昇しており、海苔養殖などへの影響がある。さらに火力発電所ができればさらに水温が上がる。

●気候変動問題

・パリ協定に反し、大量のCO2を長年に排出する。

<石炭火力発電所建設計画>

1. 横須賀【アセス：方法書済】

発電所名 横須賀火力発電所新1号機・新2号機（仮）

企業名／運営会社: JERA

設備容量: 130万kW（65万kW×2）

運転開始予定:（新1号）2023年、（新2号）2024年

2. 千葉【アセス：配慮書済】

発電所名 （仮称）蘇我火力発電所

企業名／運営会社: 千葉パワー／中国電力、JFEスチール

設備容量: 107万kW 運転開始予定: 2024年

3. 袖ヶ浦【アセス：方法書済】

発電所名 （仮称）千葉袖ヶ浦火力発電所1号・2号

企業名／運営会社: 千葉袖ヶ浦エナジー／九州電力、出光興産、東京ガス

設備容量: 200万kW（100万kW×2）

運転開始予定:（1号）2025年、（2号）2026年

<会の概要>

◎会の名称 石炭火力を考える東京湾の会（略称：東京湾の会）

◎会の目的 東京湾岸に新增設される石炭火力発電所問題等についての取り組みを行う。

◎会の性格 緩やかな連絡会（定期的な情報交換を主体にし、必要に応じて連絡会として取り組む）とし、各地域の個別案件については各地域の組織が主体的に取り組む事とする。

◎共同代表（50音順）

小西由希子（千葉／蘇我石炭火力発電所計画を考える会）

鈴木 陸郎（横須賀／横須賀石炭火力発電所建設について考える会）

富樫 孝夫（袖ヶ浦／袖ヶ浦市民が望む政策研究会）

永野 勇（市原／石炭火力を考える市原の会）

◎URL <http://nocoal-tokyobay.net/>